

令和3年度 和歌山大学教職大学院 運営協議会

議事録

和歌山大学教職大学院

1. 日時 令和3年10月6日（水曜日）～10月13日（水曜日）

2. 会場 メール審議

3. 出席 ◆外部委員

和歌山県教育委員会	川畷秀則 学校教育局長
和歌山市教育委員会	東 康修 学校教育部長
大阪体育大学	岸田正幸 教授
新宮市立三輪崎小学校	嶋田雅昭 校長
和歌山市立高松小学校	島本和昌 校長

◆本学教職員

和歌山大学大学院教育学研究科 研究科長	本山 貢
(同) 教職開発専攻 専攻長・スペシャリストコース長	寺川剛央
(同) 教職開発専攻 学校改善マネジメントコース長／副学長	添田久美子
(同) 教職開発専攻 特別支援教育コース長	武田鉄郎
(同) 教職開発専攻 授業実践力向上コース長	豊田充崇

4. 議題等

(1) 本年度の運営体制等について

運営体制については、事務方も含めた広報と入学者確保についての責任体制を明確にするようなチーム体制を考えてもよいのではとの意見や、学部に今年度より設置した「ICTプログラミング教育支援室」の位置づけが検討課題であるとの意見があったが、原案通り了承された。

(2) 本年度の入学状況及び募集状況について

現職派遣については、地域バランスに配慮した募集状況がみえるとの評価をいただく一方で、定員充足について懸念する意見が複数あった。対応策として、例えば教職大学院での研究の良さをアピールしてはどうか、また同じような地方大学で充足率の高い取り組み等を参考にしてはどうか、との意見があったが、原案通り了承された。

(3) 採用試験状況について

和歌山県を希望する割合が若干低くなっていることの指摘や、大学院での学びと関連づけながら、学生同士がチームとして2次試験突破を目指していくような体制づくりが必要ではないか、との意見があったが、原案通り了承された。

(4) ストレートマスターの就職状況について

特に意見等なく、原案通り了承された。

(5) 2019年度修了生及び管理職アンケート結果について

勤務校やクラスの状況等、またコロナ禍における制限などのある中、苦勞をされているのではとの意見や、何年かじっくり腰を据えて取組む中で見えてくるのでは、との意見があった。また、修了生には学んだことを在籍校に広げてほしいと願っているとの意見や、教職大学院での学びは有意義なものであり本人のみならず所属校にも良い影響を与えているとの意見があった。さらに学校の組織体制等さまざまな要因がある中での調査であるので、アンケート結果をもとに即断できるものではないのではとの意見もあった。種々、意見があったが、原案通り了承された。

(6) その他

オンラインによる運営協議会（前回運営協議会）について、移動を伴わず出席できる点はメリットであるが、会議の雰囲気や間合いなど把握が十分にできない心配もあるとの意見があった。

以上

※ご意見とは別に議題の(2)について、「広報以外の院生募集の具体策」についてご質問がありました。具体策としては、令和3年6月に、学部の教員採用試験対策講座（オンデマンド）に教職大学院教員が教育法規や教育公務員倫理、教育時事などの講座を提供および、校長経験者による座談会形式で「求める教師像」など面接対策講座の提供を行い、教採対策に資するとともに教職大学院教員の魅力をアピールし、入学希望者の掘り起こしを図った取り組みを実施しました。